

基本的な取り組み姿勢

岐阜市の乳幼児は、特に3歳以降の幼児の多くは、多様な教育・保育施設を利用しています。また、家庭教育においても、教育・保育施設が役割を拡大していることがうかがえますが、子どもの育ちと学びにおいて、家庭教育が果たす役割は大きいものがあります。子どもに関わる多様な主体が、それぞれの役割を果たすために必要な環境を整備することが求められます。

オール岐阜の幼児教育

幼児教育の推進のためには、子どもに関わる全ての大人の、子どもに関する理解を共有しながら、共に深めていく必要があります。各主体との対話を通じて、また、各主体間の連携の場づくりや、コーディネートを図ることで、相互のパートナーシップを育みながら、オール岐阜の幼児教育を推進します。



“子どもを中心としてつながる岐阜のまち”

子どもは地域の宝であり未来の担い手です。第3期の岐阜市教育振興基本計画では、重点として、「ひびきあいによる学びの循環」を掲げ、多様な人が関わることによる子どもの学びの深まりと大人同士のつながりや大人自身の学びを大切にしています。